

◆ 今ここで頑張っています ◆

早稲田で学生しています！

長谷川香料株式会社 総合研究所 技術研究所
木野はるか（新制51回）



木野・桐村研究室を修了後に長谷川香料に入社して約10年。それはお盆休みに前にサンプルの整理をしていたときのことでした。「木野さん、一緒に所長のところに行こう」と部長に連れられていったのは研究所の所長室。待ち構えていた所長の言葉に私は耳を疑いました。「きのこ（当時の所長が私を呼ぶときのあだ名）さ、10月からちょっと早稲田に行ってこない？」。それからちょっとどころか3年以上にわたり木野（邦器教授）研究室に出向となり、2013年4月からは社会人ドクターとして学位の取得を目指し、現在は博士課程の3年生に在籍しています。

かつていた場所に戻ったといっても、10年も経てば場所と先生以外何もかも当時とはまったく違います。しばらくは学生さんの名前は間違える、実験操作は覚えられない、居場所がない・・・など私はここでやっていけるのかと悩んだこともありましたが、一回り以上年が違う学生さんたちが分け隔てなく私に接してくれたおかげで次第にペースがつかめるようになり、今では良いのか悪いのか会社にいるよりも大学にいる方が落ち着く、という状況になっています。

大学に戻ってからは、研究室にて長年精力的に検討が行われている無保護のアミノ酸同士を直接連結することができる酵素「L-アミノ酸リガーゼ(Lal)」を用いて、会社との共同研究により「塩味増強効果を有するジペプチドの探索」と「Lalの機能改変によるジペプチドの効率的な合成法の開発」を目的に研究を進めています。会社では微生物や酵素を利用した香料やエキスの開発、微生物規格などの品質保証業務に従事しており、研究室に戻った当初はLal？機能改変？、といった知識レベルでしたが、先生をはじめとする研究室の方々や、月1日程度の出社のみであとは毎日研究室に行き研究してきなさいという会社の暖かい方針のおかげで研究に集中することができ、今では少しは成長したかなと感じています。はじめの

1年ほどどのように研究を進めていけばいいのか悩むことや、結果が出ないなど焦る日々もありました。しかし困難を重ねた末に、私が意図した通りの結果が出た日があり研究で良い結果が出るというのはこんなにも嬉しいものなのか、と実感することができました。また、学会での研究発表を通じて、会社では面識を持つ機会が無いであろう方々との人脈を広げられたこともとても有意義でした。昨年はウィーンで行われた学会に、木野先生、古屋助教、小林助手とともに参加し、国際学会の雰囲気を体験することもできました。

プライベートではこの減多に得られない学生という貴重な時間を有意義に過ごそうと、大学にも慣れた博士課程2年生のときから朝活を始め、朝7時15分～8時15分までフラダンスや阿波踊り、和太鼓、薬膳などを学びました。特に阿波踊りにはすっかりはまってしまい、今では高円寺の連に入り、みっちり練習して高円寺阿波踊りをはじめとする各地のお祭りに参加しています。ちなみに今年は本場徳島で踊ることが目標です。また大隈講堂で開催された狂言を鑑賞したり、五郎丸さんの講演を聞きに行ったりと早稲田ならではのイベントに参加できたのも良い思い出です。

順調にいけばこの応化会報が発行される頃には学位を取得し、3年半ぶりに復職している予定です。30代前半は母が亡くなり辛い日々が続きましたが、腐らずに過ごしたことで、10年ぶりの学生生活という思いがけないことが起こり、そこでじっくり勉強できる環境と新しい経験、そして多様なバックボーンを持つ友人たちを得る機会に恵まれました。母にこれらの貴重な経験を伝えることができなかったのは残念ですが、きっとどこかで見守ってくれていると信じています。

これらの経験を今度は会社さらには社会に恩返しできるように心がけ、これからも様々なことを学び、吸収して精進していきたいと思っています。